

みらい川崎市議会議員団だより

しまだ和明 市議会 ニュース



令和8年冬号

発行

みらい川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話：044-200-3355
FAX：044-245-4135

令和7年市議会第4回定例会は、11月26日から開催され、議案47件（条例22件、事件20件、補正予算5件）が提案されました。8日には、みらい川崎市議会議員団の田倉俊輔議員（多摩区選出）が会派を代表して質問をしました。私は18日に一般質問に臨みました。そして、12月22日に全ての議案が可決の上で閉会しました。主な代表質問と一般質問の質疑概要などを報告します。



嶋田和明

プロフィール
KAZUAKI

- 1968年9月川崎市で生まれる。
- 1987年3月法政大学第二高等学校卒業
- 1991年3月法政大学経営学部経営学科卒業
- 1991年4月川崎市中学校社会科教諭
- 2000年4月川崎市体操協会事務局長・理事長
- 2018年4月川崎教育文化研究所所長
- 2021年4月（公財）川崎市スポーツ協会理事
- 2022年4月多摩教育文化研究所所長
- 2023年4月市議会議員選挙（多摩区）初当選
- 2023年4月総務委員、大都市税財政制度調整特別委員
- 2024年4月まちづくり委員（副委員長）、市都市計画審議会委員
- 2025年4月健康福祉委員



川崎市議会
インターネット議会中継



12月8日

みらい川崎市議会議員団の 代表質問

Q

朝の子どもの居場所について

すでに、朝早く登校している子どもが校門前に滞留している学校があると仄聞する。現状及び課題認識について伺う。

A

市長 市立小学校では、多くの学校で7時30分から8時までの間に校門を開けている一方で、一定数の児童が開門前や、昇降口が開くまでの間、学校敷地内等で待機している状況があり、児童の安全面や昨今の暑熱等による健康面からも、課題があると認識している。教職員の新たな負担となることがないよう、地域の方のご協力もいただきながら、保護者の安心と子どもの安全を守り、地域ぐるみで子どもの成長を支える仕組みづくりに取り組んでいく。



Q

全天候型の遊び場について

「子どもが思いっきり体を動かして夢中になれる」「雨の日も暑い日も、木のぬくもり溢れる空間」とは、どのような施設を想定しているのか、伺う。

A

市長 近年、異常な暑さや局地的な豪雨など、子どもたちの遊ぶ環境にも多くの影響が生じており、このような状況に対応するためには、公園の木陰、自然環境などを活かしつつ、天候に左右されず、木の温もりを感じながら、子どもたちが安全で快適に遊べる施設の整備が必要と考えている。

Q

多摩川河川敷のトイレ整備について

令和8年度からの4年間で28棟を整備する計画では、男女別、バリアフリー化、乳幼児用設備等を付加するなど、設備更新だけでなく機能拡充も同時に進めるべきと考える。さらに、河川敷にはAEDの設置が進んでいないため、トイレ整備に合わせ設置すべきと考えるが見解と対応を伺う。

A

市長 多摩川河川敷の更なる賑わいの創出や利用者の利便性の向上に向け、女性も利用しやすく、明るく快適なトイレを導入効果の高いエリアから集中的に整備していく。男女別やバリアフリーなどに配慮した、誰もが使いやすいトイレとなるよう検討している。AEDの設置は、河川敷には様々な運動施設が設置されており、多くの市民に利用されていることから、利用者の安全に資するためにも重要であると認識しており、併せて検討していく。



Q

向ヶ丘遊園駅北口駅前広場の 自転車の乗り入れ対策について

特に駅舎前には、構造上左右の見通しが非常に悪く、歩行者動線が複雑に交差している。そこに自転車等も走行していることから、歩行者と自転車等が輻輳（ふくそう）し大変危険な状況である。明確な注意喚起や啓発等の対策が必要と考えるが、見解と対応を伺う。

A

現状は、自転車利用者の多くが歩道内を走行している状況を把握しており、駅前広場内の歩道は自転車押し歩きが原則であることを広く周知することが重要であると考えている。関係機関等と連携しながらルール周知に向けて啓発シートの設置を検討していく。



代表質問のつづき

Q

川崎市立学校介助員派遣業務について

介助員の募集を民間会社に委託し派遣するもので、令和3年度10校から令和6年度は25校に配置拡充されている。一方で単年度契約のため年度当初に介助員を配置することが困難な状況がある。これらの課題に対して、重度な障害があり特殊な介助を継続的に必要とする児童生徒については、市が直接に介助員を任用することも検討すべきと考えるが、見解と対応を伺う。

A

介助・支援人材を確保する手法については、サポートを必要とする児童生徒に対し、確実に支援を実施することが重要であると認識しており、今後複数年度契約への移行のほか、会計年度任用職員を併用する手法も含め、来年度中を目途に一定の方向性を示すことができるよう、安定的かつ持続的な人材確保に向けた方策を検討していく。

Q

認知症対策① 軽度認知障害スクリーニング事業について

本市の認知症高齢者数は、令和7年に7万人を超え、市の高齢者の約5人に1人が認知症であると推計している。効果的な認知症の早期発見・早期治療のためには、同事業によるスクリーニング参加者数の大幅増とアフターフォローに取り組むことが必要と考えるが、対応を伺う。

A

42か所の会場でイベント形式で実施しており、令和6年度は定員840名に対し544名の参加となった。認知症診断への不安やスティグマ等による受検や受診をためらう、心理的抵抗感等に配慮する必要がある。また、参加者のフォローとして、区役所職員が認知症リスク者に対して電話での受診勧奨を行っているが、詐欺等への警戒感などから対応が難しい課題もある。こうしたことを踏まえ、より効果的な取組を検討していく。

Q

認知症対策② 認知症の早期発見の取組について

本市では、「認知症訪問支援チーム」を各区に設置しており、医師、看護師、介護支援専門員、地域包括支援センター等の専門職が、認知症の疑いのある人、その家族等を訪問し、症状が重症化する前に適切な医療・介護サービスにつなげている。対象者は、市内在住の認知症が疑われる40歳以上の方としており、特に単身世帯の若年性認知症の方や独居の高齢者は、周囲に変化が気づかれにくい状況がある。見解と対応を伺う。

A

現在、様々な認知症に関する事業の周知と「新しい認知症観」の普及啓発や、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。認知症の疑いがある方から、区役所や地域包括支援センターなどが相談を受けた際には「かかりつけ医」や「もの忘れ外来などの専門医療機関」等と連携した早期の受診勧奨や、「認知症訪問支援事業」などの活用を進めている。

Q

認知症対策③ 川崎市若年性認知症支援コーディネーター事業について

この事業は、特性に配慮した就労継続支援、社会参加支援等を推進するもので、令和6年10月より支援コーディネーターが、「川崎幸クリニック」と「かわさき記念病院」の2ヶ所に配置され、本人やご家族等からの相談の受付や支援に携わるネットワークの調整などを行っている。利用状況と効果について伺う。また、企業等とも連携し積極的な広報活動や支援コーディネーターの配置拡充等が必要と考えるが見解と対応を伺う。

A

新規相談者は、令和5年度52名から増設後の令和6年10月から令和7年9月までの1年間で96名に増加している。効果として、異変を感じた就業中のご本人から併設医療機関を通じて、コーディネーターへと円滑につながったことで、早期の診断と就労継続に至った事例や、医師との連携により、認知症抗体医薬や障害者手帳の情報提供が行われた事例がある。企業等との連携では、管理職に向けた研修等を実施している。リーフレット等の提供など広報活動のさらなる工夫に努めるとともに、事業の分析や効果検証を実施していく。

12月18日

< 一般質問 >

Q

市営生田住宅の整備と市道生田51号線の安全対策について

生田3丁目の市営生田住宅の整備が令和9年2月を完成予定として工事が進んでいる。周辺道路の市道生田51号線は、柵形中学校の登下校時に多くの生徒が通行している。中学校までの坂道では、見通しの悪いカーブに対して歩道が無く、中央線や外側線などの路面標示も消えている状況である。安全対策を多摩区長に伺う。



A

当該路線は、柵形中学校の生徒が通学に利用しており、外側線をひき直すとともに、登校時間帯等の状況を把握し、地元町会や関係機関等との調整を進め、その他の対応を検討する。



認知症アクションガイドブック



市政についてのご意見・ご要望をお気軽にご連絡ください

しまだ和明事務所

〒214-0037 川崎市多摩区西生田2-1-3

TEL/FAX 044-819-5238

shimada9990@yahoo.co.jp



公式アカウント
ご登録ください



HP

f

X